

インターバンクの声（2016年7月15日）

昨日の東京市場では、ドル/円が急速に円安の流れを強め、英国民投票があった6月24日以来、約3週間ぶりに105円台を回復した。昼過ぎまでの円売りは、一旦は円が買い戻されることを期待した国内輸入勢が104円台前半でドルを買い始めたことや、日経平均株価の上昇が追い風となった。その後、午後3時過ぎから急激に1円近くドル買いが進んだのは、ヘリコプターマネー政策導入の思惑から、一部の欧米投機筋が仕掛け的に動いたためらしい。以前であれば、こうした情報に対する確認もある程度はできたが、最近では市場での情報統制が厳しく、真相を突き止めることは難しい。バーナンキ米連邦準備制度理事会（FRB）前議長が香港でのセミナー出席の前に、安倍首相や黒田日銀総裁と会談したことや、本田悦朗スイス大使がバーナンキ氏と4月に会談した際、永久国債への言及があったと一部メディアが報じたのも影響していたようだ。ニューヨーク市場では少し円が買い戻されたが、直近まで円高派だった人たちですら突如、先行きの円安予想をし始めている。不安だが104円台への下落があればドルを買ってみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。